

LOVE
the
FUTURE

未来のために、今 私たちができること



ごあいさつ

私たちが住んでいる地球は、人類にさまざまな恵みをもたらしてきました。その中で人間は多様な創造によって文化産業を発展させてきましたが、その活動は今や深刻な地球環境問題を引き起こしています。将来にわたって人類が存続していくた

めには、私たちの活動を地球環境に配慮したものに転換しなければなりません。

こうした中、企業は個々の立場で「地球との共生」を基本とした持続的発展のビジョンを明確にするとともに、さまざまなステークホルダーとの情報共有と協調により、循環型社会を構築する必要があります。

現在、TDKでは「e-material solution provider」というビジョンを掲げ、「TDKの香り」のする独創的製品を市場の変化にタイムリーに対応しながら提供し続けています。そこにあるのは、常に市場の近くで（Near The Market）、お客様とともに（Concurrent）、技術志向を貫く（Technology Oriented）という姿勢です。そしてこの姿勢は環境保全に対しても同じです。TDKは循環型社会の構築に貢献するため、エレクトロニクス産業の一員として、社会に提供する製品がITの急速な発展や情報家電、カーエレクトロニクス等の進展に貢献するだけでなく、資材調達・生産活動・流通・消費・再生のライフサイクル全般にわたって地球環境に配慮し、環境負荷の削減に寄与する製品を提供し続けていきます。

また、これまで、各事業所で環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証取得を進め、継続的改善を進めてきましたが、TDK全体としてシステム統合を図り、より大きなPDCAサイクルを回すことで、TDKの環境への取り組みを一本化し、ステークホルダーの皆様に対して、よりわかりやすい取り組みを進めていきます。

本報告書は2001年度のTDKにおける環境活動の内容を取りまとめたものです。ご一読いただくことにより、TDKの環境への取り組みをご理解いただけるものと存じます。TDKの今後の環境活動の質と効果を高め、同時に企業価値を高めていくためにも、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

TDK株式会社
代表取締役社長

会社概要

商号—— TDK株式会社(英文商号:TDK Corporation)

本社—— 東京都中央区日本橋1-13-1

設立—— 1935年12月7日

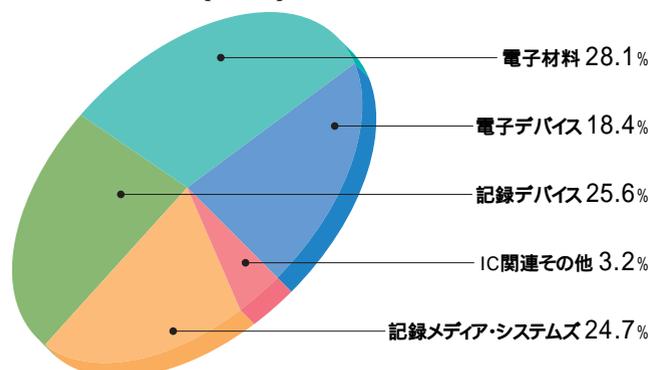
資本—— 32,641,976,312円

従業員数—— 32,249人(連結)

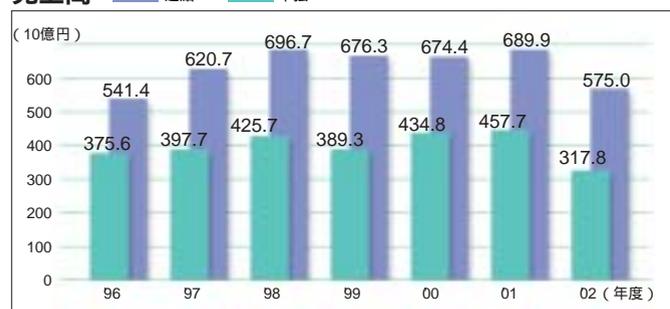
売上高—— 5,750億円(連結)

純利益—— -258億円(連結)

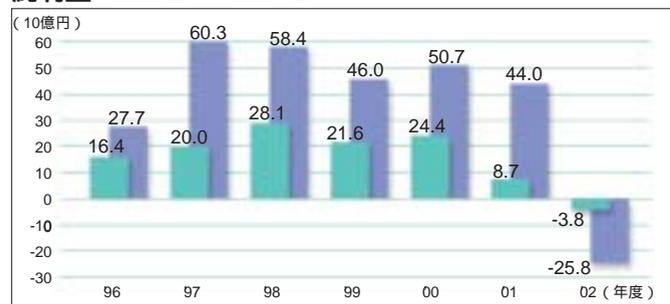
製品別売上比率(連結)



売上高



純利益



社 是

創造によって文化、産業に貢献する

社 訓

夢・勇気・信頼

TDK環境憲章

基本理念

TDKは、地球環境が全ての生命を育む母胎であることを認識し、あらゆる企業活動の中で、好ましい環境を次世代へ引き継ぐ行動を、全員で実行します。

基本方針

環境保全、省エネ、省資源など地球環境を総合的に考慮し、循環型社会へ対応出来る企業活動を行う。

行動指針

TDKは良き企業市民として、地球環境問題や資源保護に留意した企業活動を行うことにより、社是の実現を具体化する。

環境問題への取り組みに対する、行動指針を次のように定める。

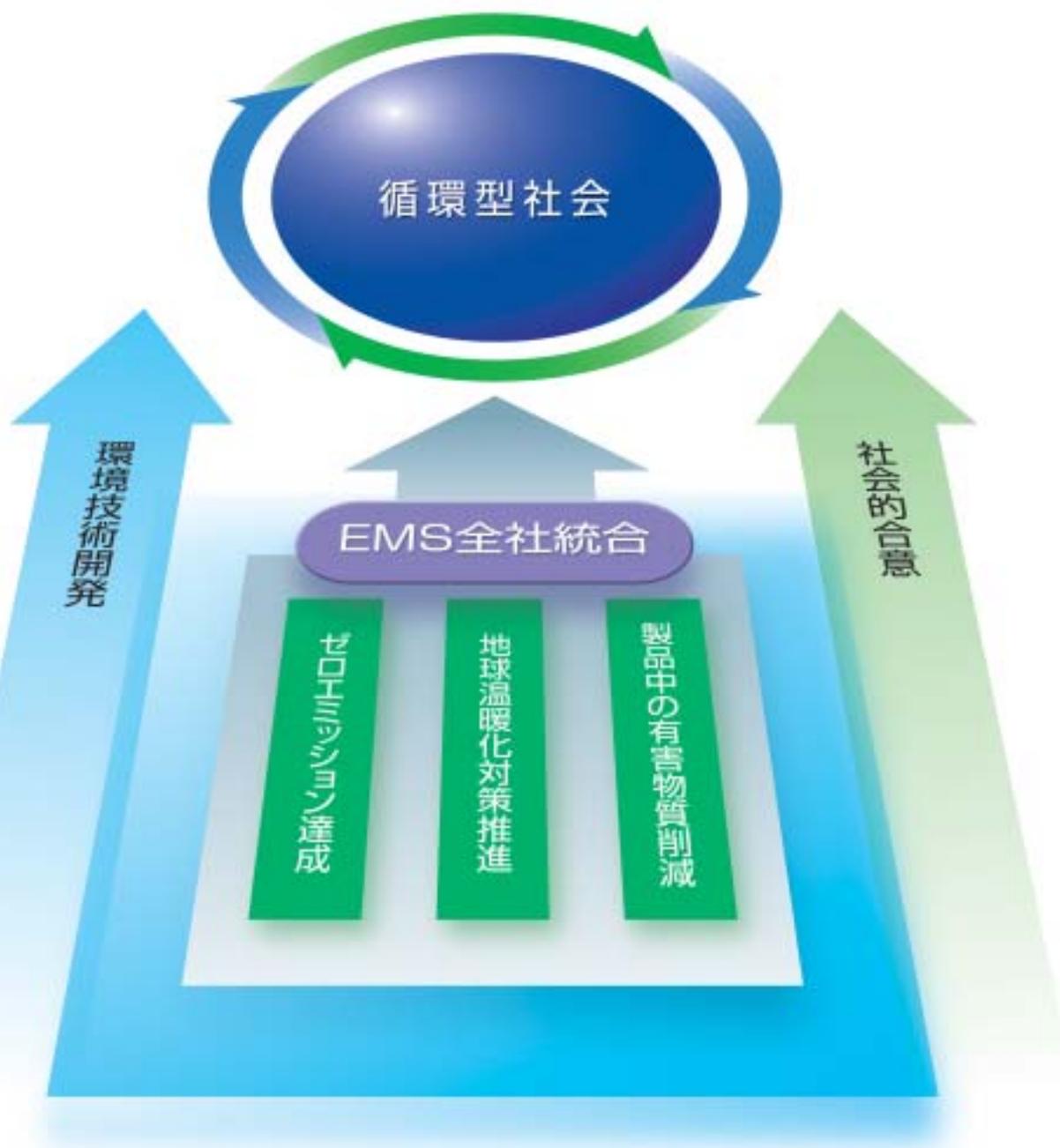
1. 環境管理活動を推進するため担当役員を頂点とした組織体制を整備し、実行する。
2. 法律規制を遵守するとともに、環境管理レベルの向上を図る。
3. 環境監査を実施し、自主環境管理の維持向上に努める。
4. 環境管理規程や、環境管理年次報告書などを発行し、常に管理規範を新しくする。
5. 環境負荷を減らすため、製品設計の段階での安全環境の評価や、開発、製造における省エネ、省資源を考慮し、環境保全に適合した製品を提供する。
6. 関連会社や海外生産拠点を含めたTDKグループとしての環境管理活動とする。
7. 企業市民として地球の環境保全に貢献する。
8. 社員の環境教育により意識の向上を図り、環境保全活動への参加を支援する。

地球と共生し、調和しながら発展していく企業を目指して

TDKの環境Vision & Strategy

21世紀は、地球環境保全に関する社会的合意が形成されるとともに、資源を有効活用するためのリサイクル技術や省エネルギー技術、有害物質を使用しない生産・製造技術が急速に進化するものと考えられます。これらの進化は循環型社会形成に大いに寄与することでしょう。また、これらの取り組みを継続するためには、企業一体となった取り組みが欠かせません。

TDKは循環型社会に貢献するため、2004年3月までにゼロエミッション達成を目指すとともに、地球温暖化防止対策の全社推進、鉛フリーをはじめとする製品の有害物質削減に継続して挑戦してまいります。また、これらの取り組みをTDKグループ全体の一貫性を持って加速していくために、環境マネジメントシステムの統合の準備を開始致しました。

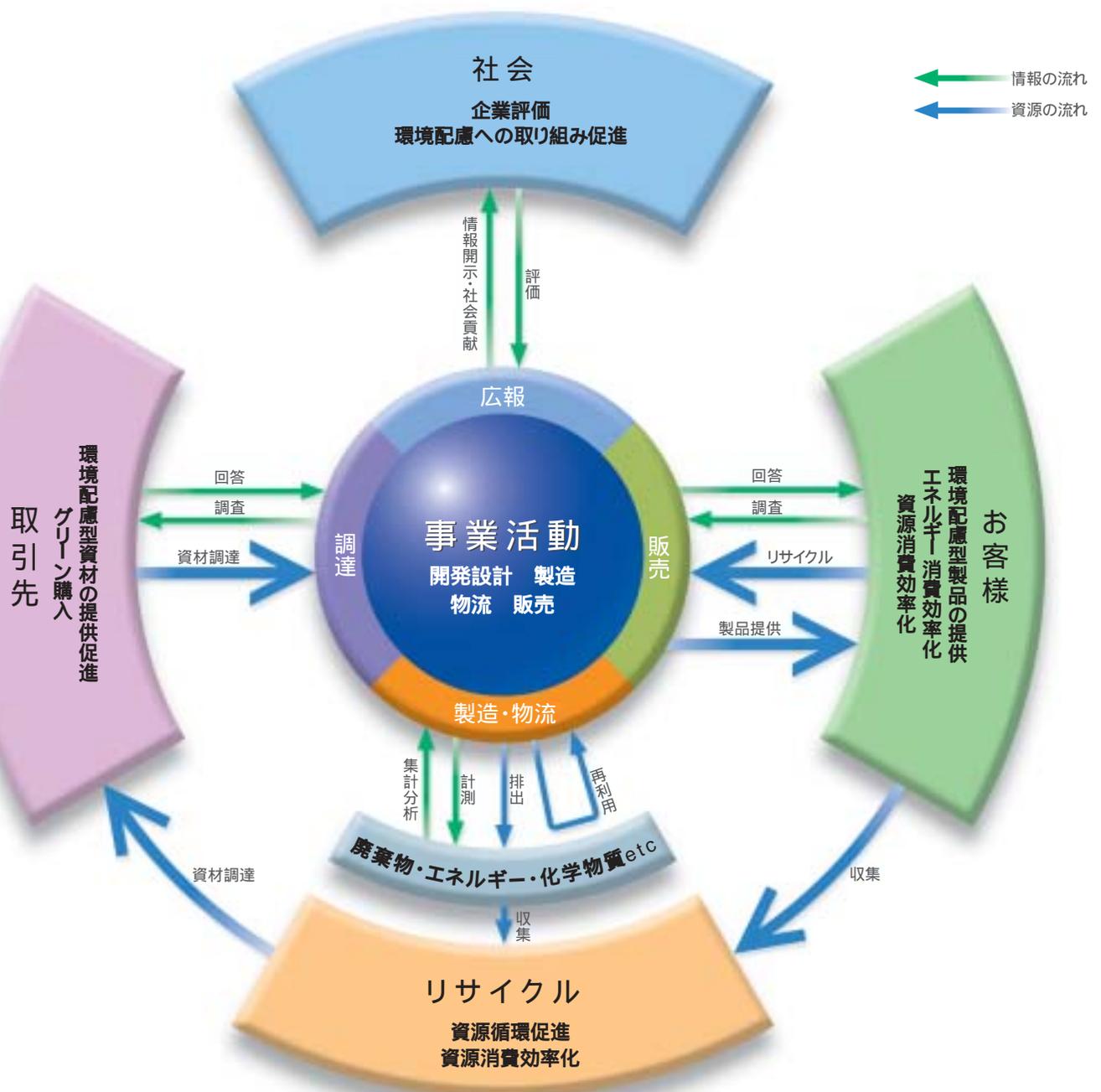


事業活動と環境への関わり

企業が将来にわたって持続可能な発展を続けるためには、最高の資源効率を生む循環型社会の実現が必要です。図はTDKの考える循環型社会を表したものです。TDKは、取引先やお客様、リサイクルをともに進める事業者とのパートナーシップのもとに、すべての段階でより環境負荷が少なく、より効率的な活動が行えるよう取り組んでいます。

また、これらのパートナーシップを構築するためには、社会に対しての情報開示および事業者との情報共有化を図り、相互に理解し合うことが欠かせません。

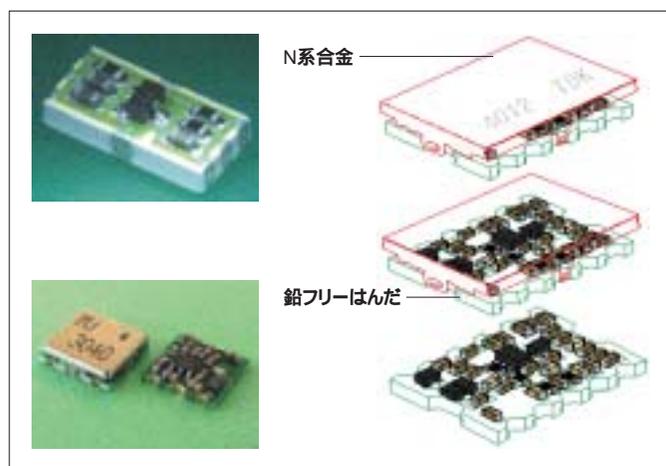
TDKは、これらの活動を通じて得られた情報やノウハウを広く社会に発信していくことで、社会全体の環境負荷削減に貢献していきます。



各事業所で着実かつ継続的な取り組みを実施 2001年度の主なトピックス

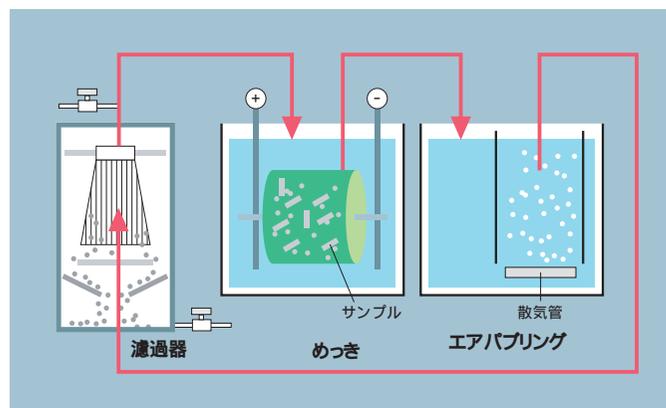
鉛フリー化

鉛フリーはんだへの量産化対応を完了。
鉛フリーはんだに対応した電子部品の量産化と承認活動を推進した結果、2002年4月をもって量産化対応を完了しました。並行して、材料の非鉛化の技術的取り組みを継続しています。



ゼロエミッション

クローズドシステムの横展開へ。
TDK Recording Media Europe S.A.(TRE、ルクセンブルグ)とTDK Manufacturing Deutschland GmbH(TMD、ドイツ)でゼロエミッションを達成しました。また、廃棄物を出さないクローズドシステムの展開として、めっき液中の障害物質を除去することにより液の寿命を延ばし、廃液の削減に貢献しています。



省エネルギー

コ・ジェネレーションシステムが稼働。
千曲川第二テクニカルセンターで2001年7月より天然ガス燃料のコ・ジェネレーションシステムが稼働し、4,000t-CO₂/年の削減効果を上げることができました。また、稲倉工場で風力発電に関する調査を行った結果、3,000MWh(定格1,750kWh導入時)の発電量が期待できることが明らかになりました。この結果を受けて、風力発電導入に向けた検討を進めています。



安全衛生

OHSMS導入を推進。
労働災害のリスクを一層低減するために、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)の導入を進めています。2001年度はリスクアセスメントの基礎構築、法的要求事項の特定方法等の検討・モデル事業所での試行を行いました。



環境会計

国内で本格的に導入。

TDKでは環境費用と環境負荷の関連を明確にし、より効果的な環境対策を推進する目的で、2001年度より環境会計を導入しました。2001年度の集計結果は以下の通りです。

分類	環境コスト			経済効果	環境保全効果
	当該年度 投資額(千円)	当該年度環境保全 維持管理費(千円)	当該年度人員 (従業員:人)	環境保全活動による 当該年度節減額(千円)	環境保全活動による当該年度負荷改善結果 法規制遵守及びその他の実績(当該年度分)
1 事業所内エリアコスト					
公害防止 (法規制管理)	375,929	671,406	38.4		・騒音・振動・臭気に関する苦情:5件
地球環境保全	504,266	252,952	12.8	・電力・燃料節減額:36,037	・CO ₂ 削減量:8,508t-CO ₂ ・社内緑化面積:16.8m ² ・社内植樹本数:35本
資源循環	143,510	841,774	28.8	・原材料等節減額:232,564 ・用水節減額:11,352 ・有価物売却益:1,153,021 ・廃棄物処分委託節減額:8,602	・原材料等削減量:14,835t ・用水削減量:53,266t ・有価物売却量:2,507t ・社外リサイクル量:13,313t ・廃棄物削減量:866t
リスク管理	0	18,845	6.7		・PRTR対象化学物質の排出削減量:1,080t ・土壌汚染対策実施件数:7件
2 上・下流コスト	0	4,082	1.2		・環境調査実施件数:880件
3 管理活動コスト	0	62,866	41.1		・教育受講延べ人数:4,797人日
4 研究開発コスト	0	104,867	2.0		・環境配慮型製品研究・開発件数:16件
5 社会活動コスト	0	16,171			・社外植樹本数:35本 ・ボランティア活動の 参加延べ人数:3,196人日 ・出稿・掲載件数:5件
6 環境損傷コスト	0	17,317	0.0		・修復実施件数(費用発生分):1件
総計	1,023,705	1,990,280	131.0	1,441,576	

(1) TDK本体及び国内関連会社の42事業所における実績集計です。

(2) 当該年度投資額は2001年度の支払額です。

(3) 当該年度環境保全維持管理費には、設備の原価償却費(法定)を含み、人件費は含まれておりません。

(4) 当該年度人員は、業務量比率を合計した人員です。

(5) 対象とした効果は実質的效果のみとし、推定的効果(リスク回避効果およびみなし効果)は含んでおりません。

自主推進目標値とTDKの取り組み

自主推進目標値と進捗について

TDKでは1993年に「TDK環境ボランティアプラン」を策定し、環境に関する行動指針を定めました。これをより具体的な活動へと展開するため、自主推進目標値を掲げて個別課題に取り組んでいます。自主推進目標値については、推進課題の進捗状況や内外の情勢変化など、必要に応じて見直しを行っています。2002年3月末現在の自主推進目標値に対する進捗状況は、下記の通りです。

2001年度のTDKの取り組み

2001年度は鉛フリーはんだに対応した電子部品の量産化技術の確立、TDK Recording Media Europe S.A.(TRE、ルクセンブルグ)及びTDK Manufacturing Deutschland GmbH(TMD、ドイツ)でのゼロエミッション達成とクロースシステム導入、千曲川第二テクニカルセンターでのコ・ジェネレーションシステムの稼働などの成果を上げることができました。今後も、材料の非鉛化の技術的取り組み、2004年3月までのゼロエミッション達成、省エネルギーの推進強化等を実施し、TDKの地球環境問題への取り組みが循環型社会に貢献できるよう取り組んでいきます。

TDKグループの自主推進目標値 と実績

推進課題	推進目標値
環境マネジメントシステム構築 (ISO14001に沿った環境マネジメントシステム構築を推進する)	<ul style="list-style-type: none"> ・2001年12月までに海外工場の認証を取得する。 ・2001年12月までにサービス子会社の認証を取得する。
環境配慮型製品の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・製品への鉛使用を継続的に削減する。 ・環境負荷の定量的な把握の為、LCAを導入する。
地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年までに、生産高CO₂原単位(原油換算)を1990年度比25%以上向上させる。 ・PFC排出量を2010年までに1995年度比で80%削減する。
ゼロエミッションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・3R(廃棄物の削減、再使用、再資源化)の積極的展開 ・事業所から排出される廃棄物の廃棄を2004年3月までにゼロとする。 ・事業所から排出される廃棄物の総排出量を2003年までに、1994年度比10%削減する。
環境負荷物質使用の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・塩化メチレンを2001年9月までに全廃する。 ・化学物質の排出量を2005年までに1997年度比で20%削減する。
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> ・生産用、原材料部材のグリーン購入を推進する。 ・オフィス用品グリーン購入を拡大する。 ・鉛フリー製品の積極的購入
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントへの参加(緑化活動、清掃活動)

自主推進目標値の改定は2001年4月

自主推進目標値の見直しについて

自主推進目標値について2001年度に見直した内容は、下記の通りです。

環境マネジメントシステム

海外の生産拠点及びサービス子会社におけるISO14001認証取得が、目標だった2001年3月において未達でした。そのため、認証取得完了の目標を2001年12月としました。

環境配慮型製品の開発

製品アセスメントの定着、はんだの鉛フリー対応が完了したことから、目標より削除しました。

環境負荷物質使用の低減

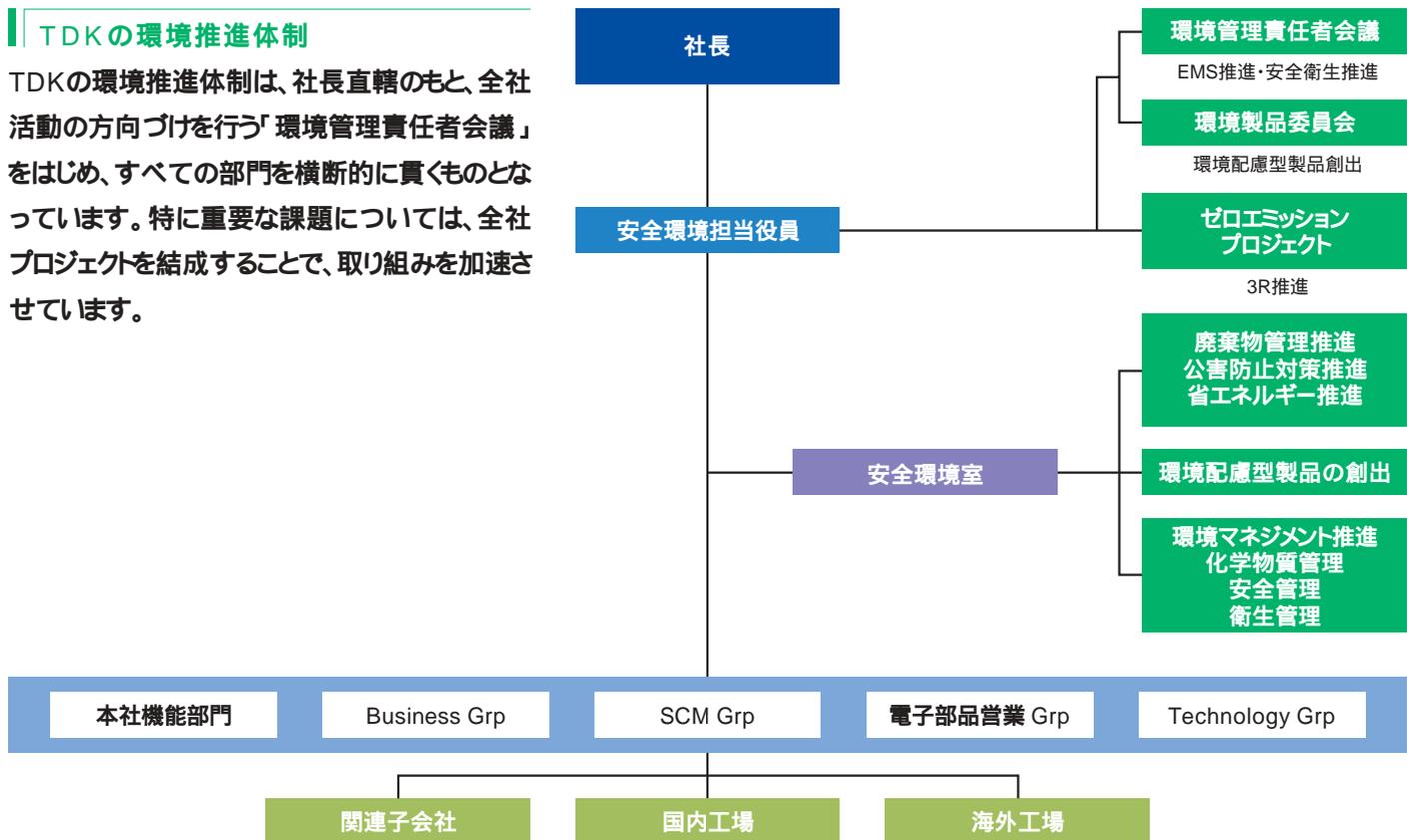
塩化メチレンの全廃を2001年3月に達成できなかったことから、全廃目標を2001年9月としました。

2001年度実績	評価	今後の取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・2001年12月までに、海外主要生産拠点16事業所で認証取得しました。 ・2002年2月までにサービス子会社3社(4事業所)の認証取得を完了しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ☀️ ▲ 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステムのレベルアップを図る目的で、環境マネジメントシステムの全社統合を検討しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・一部素材で鉛フリー対応を完了しました。 ・LCAを各事業部で試行しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ➡️ ➡️ 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き鉛フリー素材の開発を促進します。 ・主力製品についてLCAを導入していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比9.8%悪化し、1990年度比13.3%悪化となりました。 ・前年度比36.1%減で、1995年度比64.7%削減となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 🔴 ➡️ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産工程の効率化、空調の省エネルギーを促進します。 ・引き続き代替物質の切替を検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物を出さない、循環型(クローズドシステム)工程の導入しました。 ・処理業者委託量を前年度比7,092トン削減しました。 ・前年度比26.2%削減し、1994年度比30.3%削減となり、目標を達成しました。☀️ 	<ul style="list-style-type: none"> ➡️ ➡️ ☀️ 	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型(クローズドシステム)工程の横展開を図ることで、廃棄物の排出抑制を推進するとともに、止むを得ず排出される廃棄物の100%再資源化を進め、2004年3月までにゼロエミッションを達成します。
<ul style="list-style-type: none"> ・6事業所で新たに全廃しましたが、3事業所では全廃できませんでした。(44事業所中41事業所で全廃) ・前年度比71.0%削減し、1997年度比73.6%削減となり、目標を達成しました。☀️ 	<ul style="list-style-type: none"> ✖️ ☀️ 	<ul style="list-style-type: none"> ・2002年9月までに全廃します。 ・削減目標の見直しを検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ・主要取引先企業400社について調査を実施しました。 ・TDKグリーン購入ガイド(オフィス編)に基づき、購入しています。 ・取引先企業に対して鉛フリーはんだ対応部品の納入要請を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ➡️ ➡️ ➡️ 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規取引先企業の調査を継続して実施します。 ・継続してオフィス用品のグリーン化を拡大します。 ・継続して鉛フリー製品の購入を推進します。
<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所で緑化活動、清掃活動等に延べ3,196名参加しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ➡️ 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所で引き続き積極的に参加を継続していきます。

環境推進体制と環境マネジメントシステム

TDKの環境推進体制

TDKの環境推進体制は、社長直轄のもと、全社活動の方向づけを行う「環境管理責任者会議」をはじめ、すべての部門を横断的に貫くものとなっています。特に重要な課題については、全社プロジェクトを結成することで、取り組みを加速させています。



環境マネジメントシステムのレベルアップに向けて

TDKでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001に対し、1997年4月の三隈川工場での認証取得を皮切りに、2001年12月までに国内の生産拠点・研究開発拠点のすべてと海外生産拠点16事業所、および本社での認証を取得しました。また、サービス子会社4事業所も、2002年2月までに認証を取得しています。

また、環境マネジメントシステムの実効性を向上させるため、内部監査員の養成や本社調査の試行などを実施しました。

しかし、サイトごとの認証取得における業務の重複や、TDKグループと各サイトの環境施策の整合性が取れていないなどの問題点も明らかになりました。

これらの問題点を解消し、環境マネジメントシステムのレベルアップを図ることを目的に、環境マネジメントシステムを全社で統合するための準備委員会を2002年4月に発足させ、その具体的課題の検討を開始しました。



LOVE the FUTURE

未来のために、今、私たちができること
すべての生命の母である地球。今私たち人類に
求められているのは、その地球との永続的な共生
関係を築くことです。共生、すなわちイコール・パー
トナーであるために前提となるのは、いつまでも変
わることのない「愛」ではないでしょうか。すべての
環境活動の出発点は地球への愛であるとの思い
を込めて、TDKではこのスローガンを定めました。

TDK環境報告書2002について

TDKでは、より多くの方へ環境への取り組みをご理解いただくため、

1999年より、毎年1回、環境報告書を発行しております。

「TDK環境報告書2002」は、TDKグループの取り組みと成果を容易にご理解いただけますよう、冊子では、
主要事項をコンパクトに編集したダイジェスト版としております。

さらに個別事項の詳細についてご関心のある方は、詳細版をCD-ROM(日本語版、英語版)で
ご覧いただきますよう、お願いいたします。